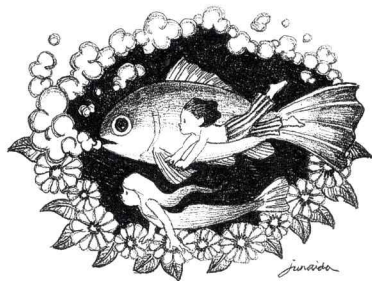


朝日 歌壇 俳壇



〈日曜日のブローチ 15〉 junaida

短歌時評 ネット短歌の20年

山崎 聡子

2000年代初頭は、インターネット上に短歌のコミュニティが醸成されはじめた、まさに黎明期だった。掲示板やメーリングリスト、参加者が1年かけて100首を詠んでいく「題詠マラソン」などは、愛好者同士の親密なおしゃべりの場のようであり、短歌を書きはじめたばかりの私の目にも新鮮に映った。その頃に名前を覚えた魅力的な歌人のなかで、6月に『とてもしずかな心臓ふたつ』が出版された村上きわみがいた。

ぼくたちが ぼく／たち でしかないことの たんぽほ煙あんなにきれいなつかしい未来 あなたともう一度にくだりあいたい ありたい 一人称「ぼく」や平仮名書きにみられるように、村上の歌には生々しい生活感が出ていない代わり、誰もが代入可能な、それでいて切実な自己像が結ばれている。「ぼく／たち」が「ぼく／たち」にすぎない孤独を抱えながら、誰かと繋がりたいことを求める心。遺稿集でもある同

書の編集を務めた錦見映理子が、掲示板で知り合った顔も知らない村上の言葉に救われたと記すとおり、言葉だけで繋がる濃密な空間がそこに存在した。現在、20年前が牧歌的と思えるほど、インターネット環境は様変わりした。そのなかにあつて、SNSや短歌投稿サイト・アプリなどが興隆を極め、「短歌を通して人と繋がりたい」と欲する人の数は目に見えて増えている。そこにあるのは、作品を通して自己と他者を理解したいという、分断とは真逆の営みだろう。20年前から繋がる短歌のシーンが、いま芽吹いている。

千種創一歌集「あやとり」「砂丘律」「千夜虫猿」に続く歌集。「伝えねば、否、伝わるような苦痛であつてたまるかの、花、渡さねば」(短歌研究社・2750円)「松平修文全集」 画家・美術史家でもあった松平の「水村」から「トウオネラ」までの全5歌集に加え、私家版の句集や詩集などを収録。解説は大森静佳。(青磁社・2970円)

☆は共選作。入選作はデジタル版などにも掲載・収録し、記事やSNSで引用することがあります。投稿は未発表の自作のみ、二重投稿不可。選者が添削する場合があります。郵便での投稿は無地のはがき1枚に1作品、横に住所、氏名、電話番号を明記。〒104・8661 晴海郵便局私書箱300、短歌は「朝日歌壇」、俳句は「朝日俳壇」へ。ネットからも投稿できます(週に2作品まで)。QRコードから。

● 永田和宏選

観音の細き手首にうつすらと躊躇ひ傷のやうな接ぎ痕 (宇治市) 濱岡 学
非常時に核シェルターになるだろか地下三階の北習志野駅 (船橋市) 佐々木美彌子
宗教の対立による戦争より損得でやる戦争怖し (名古屋) 浅井 克宏
この日会う人全員に「わあ!綺麗」と言わせる披露宴の気まずさ (小田原市) 中村 玲子
危機的な悲鳴と違ふ少女らの青大将を見し悲鳴なり (三鷹市) 宮野隆一郎
セルリアンブルーのシャツで出なければ風も時間も私の味方 (富山市) 松田 わこ
「急にいなくなったりしないでくださいね」そう言ったのはあなたでしたよ (大阪市) 加藤 成和
「カッ」よくて頼れるせんばい!寄せ書きに見つけれぬの知らない息子(和泉市)星田 美紀
☆子らのこと「ガキ」と言つてと蚕のこと「お蚕さま」と呼びぬむかしの吾が村 (松戸市) 猪野 富子
立夏から立秋までを積分し夏の一首を仕上げてる (松山市) しのはらまさし

【評】濱岡さん、手首の微かな継ぎ目が「躊躇ひ傷」に見えたのは、観音様にも何か深い傷があるのかとの思いか。佐々木さん、ウクライナでは実際にシェルターとして使われていた。十首目、面白いが、歌を作るなら、積分じゃなく微分でしょう。

● 川野里子選

母となれば野生動物の気分で歩く。事故には遭えない。子が家で待つ (東京都) 上田 結香
ガザの子と俺の裸はよく似てる食べたければ食べられないのだ (富士宮市) 脇本 俊雄
雪よりも静かに話す先生に踏み入らなければ広がる雪野 (市川市) 小林 薫子
婚約者紹介されて桃パフェの長いスプーンの置き場に迷う (横浜市) 杉本 恭子
六歳の悩みは園のお昼寝のみんなの寝息が揃わないこと (横浜市) 前沢 空
A1に「あなたは悪くないです」と言われてしずかに眠気は来たり (平塚市) 小松百合華
午前二時スマホは束の間身震いす不発弾のごと非通知電話 (堺市) 芝田 義勝
わが島の蜚蜚は島に住む丸花蜂に合はせて小柄 (東京都) 大村 森美
インパラのごとハードルを跳び終へて子はゆつくりとヒトに戻りぬ (和泉市) 星田 美紀
待ち伏せる狙い球張る裏を取る読みと読みとがフィールド駆けける (静岡市) 堀田 孝

【評】一首目、何としても子供の元へ帰らねば。獣も人間も母の気持ちちは同じ。二首目、食べられない理由は違うがその苦しみは身体で分かる。三首目、先生の学問世界への憧れ。四首目、動揺すると長いスプーンはいよいよ置き場がない。

● 佐佐木幸綱選

ボタン式ドアの電車乗継き帰省する山並み今もあの頃のまま (戸田市) 蜂巣 幸彦
田んぼ減り蛙が減つて蛇も減る蛇嫌ひだが何だか不安 (下関市) 内田 恒生
囚人も刑務職員も俳句好き刑務所隠語に季語あまたあり (つくば市) 小林 浦波
放課後の職員室に教員が将棋していた昭和懐かし (吉野川市) 喜島 成幸
木いちごを食みつつ登りし日もありし新燃岳のまた噴火する (熊本市) 徳丸 征子
町に住む子どもや孫も駆けつけて大人数の今年の田植え (菊池市) 神谷紀美子
病院の夜の長さを持て余し朝の小鳥の声を待ちわぶ (横須賀市) 阿部 文彦
学校とダンス部と塾とタイエットに時間のない私 限界JK (松本市) 金 ナレ
☆子らのこと「ガキ」と言つてと蚕のこと「お蚕さま」と呼びぬむかしの吾が村 (松戸市) 猪野 富子
昨年は命のあった証しなり母の名の源泉徴収票 (豊中市) 藤原せつこ

【評】第一首、帰省するたびに、ボタン式ドアが気になっているのだろう。第二首、結句「何だか不安」にこめられた作者の思いを読み取りたい。第三首、「刑務所隠語」には思わず笑ってしまった。

● 高野公彦選

啄木よ驚くなけれ停車場は人ごみの中異国語の渦 (尼崎市) 佐治登志子
あの日雨で遠足が美術館に変わり「原爆の図」を見ることができた (東京都) 上田 結香
被爆者とハグしたオバマ原爆に意味があつたと語るトランプ (観音寺市) 篠原 俊則
スケボーを広場で遊ぶ子どもらの年端でゆきけり特攻兵は (神戸市) 松本 淳一
飢えさせて食糧送り寄り来たる無事の民撃つネタニヤフ軍 (多摩市) 田中 久幸
八十路過ぎし肥後もつこすのわが兄は赤字と言ひつつ田に米作る (高崎市) 野口 啓子
受くるより施す側を願えどもどちらも辛し介護というは (下野市) 若島 安子
「よく来だない」峠の老婆の染みる声戊辰を越えて続けた店 (福島市) 澤 正宏
黙々と田畑を守るふるさとの甥より届く十キロの米 (新潟市) 植木 テル
数学の先生授業であつてるとき乱数メーカー使つてあてる (奈良市) 山添 葵

【評】1首目、啄木は「ふるさとの訛なつかし」と詠んだが、最近の停車場は異国語の渦。2首目、運悪く雨で遠足が中止され、代わりに原爆の悲惨さを知った運の良さ。3首目、以前の大統領は広島で被爆者とハグしたが、今の大統領は大連い。